

令和5年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立 港晴小学校

令和6年2月

大阪市立港晴小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「豊かな人間性を育み、明るく楽しくたくましく生きる子どもを育てる」を学校教育目標にさだめ「明るく、楽しく、たくましく」を校訓として日々の教育活動に取り組んでいる。

令和5年度の在籍児童数は154名で、昨年度より8名減少した。児童数の推移についての見通しは不透明であるが、当面は各学年1学級での学校運営となることが考えられている。

安全・安心な教育の推進を図る指標として、「いじめ」の問題に積極的に取り組んでいる。

「心の天気」や「いじめアンケート」による児童からの発信を受け止め、寄り添って声掛けをすることや、道徳科の授業などで児童への啓発活動を行ってきた。その結果、多人数に広がる「いじめ」の問題は発生していないが、いつ、どこで起きるかわからないという意識を常に持ち、教職員が共通理解を図りながら今後も取り組んでいきたいと考えている。

令和4年度の校内児童アンケートにおいて「港晴小学校のやくそくを守っていますか」の設問では「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は90%に達した。しかし、遊具の使い方や廊下・階段での歩行など、ルールを守ることができない児童もいるので更なる啓発活動が必要である。

学力の向上については、研究教科である国語科を中心に教職員一同が一丸となって研究活動に取り組み、授業力の向上に努めてきた。また学力向上チーム支援事業の選定を受け、児童の学力向上に努めた。特に、放課後学習教室や長期休業中にはコラボレーターや学びサポーターを中心に児童の指導にあたってきた。その結果、令和4年度の全国学力・学習状況調査では、国語科・算数科・理科全教科で全国平均を下回ったが、大阪市学力経年調査では、4・5・6年の全教科で昨年度標準化得点を上回る結果となった。今年度も今までの取り組みを継続し、発展させていきたい。

体力の向上については縄とび週間や縄跳び大会を設けることによって体力の向上を図ってきた。また、築港中学校の体育科の教員と連携して複数名で指導にあたっている。しかし、一部の項目において全国体力運動能力調査では、全国・大阪市より劣っている項目が見られるので継続的な取り組みを続けていきたい。

学びを支える教育活動の充実においては、1人1台パソコンの活用が児童に浸透し、日ごろの教育活動の中で効果的に活用できるようになってきている。今後も各学校での実践を取り入れることや教職員間での情報共有を図ることで教育活動の更なる充実を図っていききたい。また、児童に学習の楽しさや達成感を味わわせることで、学習に対して取り組む姿勢を向上させていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年向上させていく。
(港晴小 令和4年度→5年度 90.1%→88.2%)
- 校内児童アンケートの「学校が楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を毎年向上させていく。
(港晴小 令和4年度→5年度 86.8%→86.4%)
- 校内児童アンケートにおける「災害が起こったときに、どうすればよいかわかりますか。」の項目について、肯定的な回答の割合90%以上を維持する。
(港晴小 令和4年度→5年度 93.4%→97.3%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内児童アンケートの「学習はわかりますか」の肯定的な回答の割合を毎年向上させる。
(港晴小 令和4年度→5年度 96.1%→94.5%)
- 校内児童アンケートの「運動や遊びを進んでしていますか」の肯定的な回答の割合を毎年向上させる。
(港晴小 令和4年度→5年度 87.5%→83.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 校内児童アンケートの「1人1台パソコンを使って、学習がよくわかるようになりましたか。」の肯定的な回答の割合を90%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 86.8%→90.0%)
- ゆとりの日を週に1回設定し、18時までに退勤する教職員の割合を80%以上にする。
(港晴小 令和4年度3学期→5年度3学期 73%→79%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 69.1%→72.5%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 23.4%→36.3%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。
(港晴小 令和5年度 76.6%)
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 81.3%→73.7%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 71.0%→76.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・授業日において学習者用端末を毎日使用する。（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
(港晴小 令和5年度 100%)
- ・校内児童アンケートの「1人1台パソコンを使って、学習がよくわかるようになりましたか。」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 86.8%→90.0%)

※

- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。
(港晴小 令和4年度→5年度 81.2%→100%)

※ 基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

中期目標に関しては、災害に対する意識の向上が見られ、目標を達成するとともに100%により近づく結果となった。しかし、「学校のきまり・規則を守っていますか」と学校が楽しい」の項目についてはほぼ横ばいとなり、目標を達成できなかった。

また、年度目標の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、上昇傾向となっているが、目標には大幅に届いていない結果となっている。「いじめアンケート」の実施及び対応や「いじめ対策委員会」で教職員での共通理解を図る中でいじめ事案は発生していないが、児童の意識を向上させるよう、道徳科の学習を中心とした指導をさらに工夫し、啓発をしていかなければいけないと考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期目標に関しては、達成することはできなかったが、高い数値を維持することはできているので、今後も今までの研究体制を維持し、より向上を図っていきたい。

また、年度目標についてはどの項目も達成をしている。特に昨年度達成できなかった「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、大幅に上昇する結果となった。教職員の研修・実践の結果ととらえている。

【学びを支える教育環境の充実】

中期目標については、「1人1台パソコンを使って、学習がよくわかるようになりましたか」の数値が昨年度より上昇し、目標を達成した。パソコンを使った学習が児童に浸透してきたことがうかがえる。また、ゆとりの日の活用については達成できなかったが、昨年度より数値は上昇し、目標達成に近づいている。

年度目標については、どの項目も目標を達成した。特に教員の勤務時間に関する基準2を全教員が満たす結果となっている。

(様式2)

大阪市立港晴小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・学校) ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に実施し、当該児童からの訴えを聞き取り、解決を図る。 <div>(1-1 いじめへの対応)</div> <hr/> 指標・いじめのアンケート調査を年3回（6月・10月・1月）に行う。 ・「いじめアンケート」週間を設け、定期的に実施し、問題解決を図り、重篤な案件は発生していない。その後のケアや関係性についても様子を見たり、保護者と連絡を取ったりしている。 ・学年によっては、タブレットでの調査が可能となり、調査後すぐに指導ができるようになった。	B

<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童理解・支援計画シートを活用し、不登校の未然防止や早期発見、解決に努めるとともに、1人1台学習用端末等を活用することで多様な学習の機会と場を提供する。</p> <p style="text-align: right;">(1-2 不登校への対応)</p> <hr/> <p>指標・ICTの活用等により、本人・保護者とつながる回数を週2回以上にする。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向にある児童と、週2回以上オンラインを実施し学習の機会を提供している。また、保護者とも、電話や家庭訪問、来校を促すなどして連携をとることができている。 ・ミマモルメや電話、連絡帳を活用し、保護者とつながる回数は増えている。 ・不登校児童に対してICT機器のメッセージ機能を活用して、つながりを作ることができた。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>「道徳科」の学習を要とし、教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">(2-1 道徳教育の推進)</p> <hr/> <p>指標・令和4年度の学校アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果、前回より3.4ポイント上昇し、71.8%となった。目標値を上回った。 ・1月の校内アンケートにおいて、目標を達成することができている。また、道徳科を研究の対象とし、取り組むことができた 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを実施することによって、普段口にすることができていない児童からも話を聞きとり、解決に向けて対処できるように努めている。「された」と感じる児童は、そのことを強く気にしていることがあり、継続したフォローが必要だと感じる。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTに限らず、電話や家庭訪問、休み時間や課外時間外の登校等、個に応じた対応をすることができた。 ・「年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。」という項目において、担任が不登校児童や保護者に働きかけてはいたが、改善することはなかなか難しい。 ・不登校児童がオンラインでの学習に参加したり、学校に少し遅れながらも登校したりするなど、学校との関係をつなぐことはできている。 	

取組内容③

- ・児童アンケート、保護者アンケートともに、数値は上昇している。
- ・道徳科や、さまざまな学校行事や取り組み、日々の学習を通して、自己肯定感が上がってきている。

次年度への改善点

取組内容①

- ・現在の取り組みを今後も継続していく。
 - ・心の天気を、いじめや悩みを解決する媒体としてもっと活用していけないか検討する必要がある。
- ◎SCの方に傾向をチェックしてもらうなどして、アドバイスがもらえないか。

取組内容②

- ・オンラインのテレビ電話形式のやりとりだけでなく、メッセージ機能を用いたやりとりも活用できると不登校の児童にもハードルが低く取り組めるのではないか。
- ・個に応じた対応を続けていく。
- ・不登校に関する研修などがあればしてほしい。「知識」は自分で得られるが、具体的な対処法を研修したい。どのようにして対応するのか、学校として動くのか、保護者と連携するのかなど・・・
- ・不登校傾向にある児童や起立性調節障害などで午前中の登校が難しい児童への学習サポートは、担任だけでは難しい。担任外の先生を中心に、空きコマや放課後等に学習支援ができる校内体制の構築を進めてもいいのではないか。

取組内容③

- ・道徳科の教育をどのように実践すれば、指標の項目の向上につながるかを明確にし、教えてほしい。
- ・道徳科の学習と、アンケートの結果がどのように結びついていたのか、わかりにくかったので、再検討が必要。
- ・研究科目が道徳になったことで、道徳の教材研究がすすんだ。
- ・様々な取り組みを通して、自己肯定感が上がるような声かけや取り組みを続けていく。

(様式2)

大阪市長 (学校園名) 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント以上向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>言語活動の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行う。</p> <p>(4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成))</p> <hr/> <p>指標 ・全ての教員が年間1本以上の授業研究・公開授業を実施する。</p>	B
<p>・計画通り、全ての教員が年間1本以上の授業研究・公開授業を実施することができた。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>経年調査結果や単元テストの結果を分析し、児童一人一人の課題を見極め、放課後学習支援へとつなげる。特に学力向上に支援を要する児童に対して基礎学力の底上げを図る。</p> <p>(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実))</p> <hr/> <p>指標 ・学びコラボレーターとの連絡会を年2回以上実施する。</p>	B
<p>・2回目の連絡会は年度末を予定しており、来年度の引継ぎを行う予定である。また、日常的に情報交換を行い、児童の実態に合わせた学びの支援をすることができた。</p>	

取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語（英語）教育において、教員の指導力・英語力向上を図る。 <div>(4-3 英語教育の強化)</div>		B
指標 ・巡回訪問指導など、教員の指導力・英語力向上に向けた研修会を年間 2 回以上実施する。		
・教員の指導力・英語力向上に向けた研修会を 2 回実施することができた。		
取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 主体的に運動する習慣を身に付け、基礎的な体力・運動能力の向上を図る。 <div>(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</div>		B
指標 ・児童が運動に楽しく参加できる取組・企画を年間 2 回以上実施する。		
・体力の向上を図る取り組みを 2 回実施することができた。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【取組内容①】</div> <div>・授業研究・公開授業の後、研究討議会や研修会、振り返り会を行い、授業改善を行った。その結果、道徳科の授業の作り方を見通すことができるようになった。一方、「道徳科」において、主体的で深い学びができたのか、成果が見えにくかった。</div>		
<div>【取組内容②】</div> <div>・放課後学習の先生が、授業中も入り込んでくださり、参加児童はわからないところを積極的に質問できるようになっている。その結果、基礎学力の向上にもつながっている。また、学習に対する意欲が上昇している児童も見られた。</div> <div>・学びコラボレーターを中心に、様々な角度から結果を分析し、教材等を準備している。</div>		
<div>【取組内容③】</div> <div>・定期的に研修会を行うことで教員の指導力向上につながっている。また、授業の組み立て方を見通すことができるようになった。一方、外国語の指導に苦手意識のある教員にとっては、2 回だけの研修では、指導力・英語力向上につながっているといいきれない部分がある。</div>		
<div>【取組内容④】</div> <div>・大なわ大会の前や、耐寒なわとび週間中は外で運動する児童が増え、普段あまり外に出ない児童が積極的に体を動かす良い機会となった。</div>		

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・現在まとめを行っているところである。今年度の課題を生かし、来年度へつなげていく具体的方策を検討していく。
- ・研究授業や公開授業は、参観できるようにすると、児童はどうしても自習の体制になってしまう。そのため、時期が重なってしまったときに困ることがあったので、できるだけ分散しているほうが良い。
- ・効果検証授業の目的を学校全体で明確にし、周知するべきではないか。授業者は1人でも、その目的に応じて学校全体で取り組んでいくべき。授業者1人に丸投げして、年間3本実施するのは結構大変だった。
- ・来年度も道徳科の研究を続けるのか検討が必要。

【取組内容②】

- ・放課後学習は、児童にとっても担任にとっても、得るものが大きいので、来年度も継続してほしい。
- ・漢字検定の対策もしてもらえるとありがたい。

【取組内容③】

- ・年に2回巡回訪問や研修会をもつことはできているが、研修内容が毎年同じような形なので教員の指導力や英語力を上げるための研修会を設定する必要がある。
⇒公開授業を行い、授業を参観し、授業討議会を設けて指導講評をいただくなど。(C-NET がいるとき、いないときそれぞれできるとよい。)

【取組内容④】

- ・年間計画を立て、1学期にも実施し、時期が重ならないようにする。
- ・日常の休み時間に進んで取り組みたくなる内容や、より児童が主体的に楽しく取り組めるものに改善していくために、児童会とも連携しながら取り組みを進めていく。たとえば、たてわり班で遊ぶ内容を決めて、遊ぶ機会を設けるなど。
- ・「大なわ大会」も「なわとび」も「とぶ」運動なので、違う系統（ボールや走るなど）の取り組みにする。
- ・もし、来年度も大なわ大会をするのなら、指導が担任に一任にならないように、事前に大なわ大会における技術指導（跳ぶ・回す）や主体的に取り組めるようにするための各クラスの工夫を共有できるようにする。

(様式2)

大阪市長 (学校園名) 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) 【ICTの活用に関する目標を設定する】 <ul style="list-style-type: none"> 授業日において学習者用端末を毎日使用する。(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) 校内児童アンケートの「1人1台パソコンを使って、学習がよくわかるようになりましたか。」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。 【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】 <ul style="list-style-type: none"> 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 デジタルドリルを用いた個別最適な学びを推進する。 (6-1 ICTを活用した教育の推進)	B
指標 ・週に1回、朝学習の時間を活用してデジタルドリルでの学習に取り組む。 ・毎週金曜日、デジタルドリルでの学習に取り組むことができた。 ・朝学習の時間以外にも、復習ツールとしてデジタルドリルを活用した。 ・教員がいなくてもきちんと学習に取り組める児童が増えた。	
取組内容②【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 授業の中で学習者用端末を活用し、個別最適な学びと共同的な学びを推進する。 (6-1 ICTを活用した教育の推進)	
指標 ・各教科で年間1回以上、学習者用端末を活用する。 ・各教科で年間1回以上、学習者用端末を活用することができた。 ・教科に応じて、活用しやすいものと、どのように活用するのに悩む教科があり、まだ活用できていない教科がある。	B

取組内容③【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日を設定し、教員の超過労働を解消する。 <div>(7-1 働き方改革の推進)</div>		B
指標 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 70 % 以上にする。		
・ 100 % 達成できる見込みである。 ・ 意識して行動できた。 ・ ゆとりの日は設定されているが、実際にはすべての人がそれに従って、業務を終えることは難しかった。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
年度目標（全市共通目標）について、全て達成することができた。 ・ 授業日において毎日活用 ○ ・ 児童アンケート 端末活用によって学習がわかるようになったか 90 % ○ ・ 勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合 100 %（見込み） ○ ①（デジタルドリル）について ・ 曜日を設定することで、欠かさず取り組むことができた。 ・ 取り組む内容については児童任せになっている。 ②（端末活用）について ・ 各教科での活用を考え、実践することができた。 ・ 学んだことをスライド等にまとめて、効果的に発表することができた。 ・ 研修会を開いたことで、活用方法をたくさん知ることができた。 ・ 朝の心の天気入力後、机の横に準備することで、必要なときにすぐに使うことができた。 ③（超過労働の解消）について ・ 基準 2 は 100 %（見込み） 達成できた。 ・ 学校で勤務はしていなくても、自宅等で仕事をしている教員はたくさんいる。 ・ ゆとりの日を週 1 回設定することで、会議を入れない日を確保している。 ・ 行事における学級担任の物理的・精神的負担が大きい。（自然体験、運動会、学習発表会）		
次年度への改善点		
①（デジタルドリル）について ・ 指導者がデジタルドリルの内容を事前に把握して、その時の学習内容に合わせて児童に課題を課すことができればより効果的であると思う。 ・ 個人のペースでできるのは良いが、本人任せになってしまっている部分もあるので、進捗状況が分かりづらい。 ⇒課題の配信と進捗状況の把握はシステムとしてできるので、資料配布や研修等でお伝えする。また、要請すればデジタルドリル支援員に来ていただくこともできる。（年 1， 2 回程度）		

・計画にあるので実施していたが、本音は自分で用意したプリントをしたい。その時の学習内容に合わせたプリントをさせたいので、強制ではなく、自由にしてほしい。

⇒児童はデジタルドリルに慣れてきたと思うので、次年度取組内容を変えてもよい。

・マンネリ化しないように、デジタルドリルにこだわらず、学習者用端末を活用した他の学習も可として取り組んでもよいかと思う。(何でもありではなく、今週はデジタルドリル、来週はタイピング練習など、指導者が指示する形で)

・デジタルドリルを使っているけど、何も考えず、入力して間違えたところに書かれている答えを写している場合もある。

⇒今まで通り、プリントやドリルでの学習とも併用して行う。

②（端末活用）について

・全教科で実施したが、学年や教科の特性に応じて指導者が工夫していくことが大切である。

・学習者用端末の活用の仕方の研修を継続して続けていく必要がある。

・学級だけでなく、委員会などでもどんどん活用できる。(アンケートやポスター作成等)

・各教科での活用ではなく、場面別（導入・展開・まとめ）での活用や、活用方法別（記録・表現・調べ学習等）での活用など、指導者が端末の活用方法を意識して取り組めるようにする。

・児童アンケートの数値は上昇したが、実際に活用スキルが上がっているのか、情報活用能力チェックシート等を活用し、児童の実態の把握に努める。

③（超過労働の解消）について

・業務量の削減や分担をしないと、ゆとりの日であっても、自宅に仕事を持ち帰ることになる。

・ゆとりの日の設定を有意義なものとする取組が必要。

⇒会議の設定が無いという恩恵がある。

・行事における学級担任の負担、学年による負担など、もちろん平等にはならないが、目に見える業務量を分担したり、協力したりして取り組んでいけるような仕組みを作れないか。

・担任外を各学年担当として、行事と一緒に取り組めるようにするのはどうか。

(作品展の看板づくりや、運動会の指導、宿泊行事の役割分担など)

・親睦会の廃止。忘年会などは有志でやればよいのではないか。幹事が大変なので。

⇒プール資金をどうするか。

・長期休暇中の宿題の購入は担任の業務削減に繋がっている。もし、購入できないようになったら、デジタルドリルでの宿題の配信で、宿題作成や丸付けの負担を削減することができるのではないか。

・放課後にも SSS の方がいらっしやると、仕事を頼みやすい。

・引き継ぎ資料を作成して教員の負担を減らすことができるようにする。

